



第5回高分子分析討論会報告【2000】

2000年11月9日（木）、10日（金）の2日間に亘って、名古屋市工業研究所において標記討論会が開催された。例年よりも一月ほど準備が遅れたにもかかわらず、発表件数、参加者とも昨年とほぼ同等の、61件のポスター発表と200名を超える参加者を得て、非常に盛況の内に討論が繰り広げられた。1日目は高分子分析研究懇談会会長である東北大の寺前教授から「本討論会も5回目を迎え定着した感がある。ターゲットも明確で実学的な発表が多く、実質的に意義のある討論の場としたい」との挨拶の後、午前の部のプレビュー講演（持ち時間3分間）とポスター発表（1時間30分）が行われた。ポスター発表は1日目午前と午後、2日目午前と午後と4部に分け同様な形式で行われた。この形式もすっかり定着した感があり、ほとんどのプレビュー講演が簡潔にかつ的確にまとめられ、ポスター発表も休む間もなくひっきりなしに質問が飛び交い、密な討論が繰り広げられていた。

初日の午後は特別講演が設定されていて、京都大学工学研究科教授の中條先生に「有機—無機ハイブリッド材料の可能性」と題して、有機高分子と無機高分子をゾルーゲル法で100nmオーダーに分散させたハイブリッド材料の創製について、合成法から、期待される新しい機能までを分かり易く、やさしく講演して頂いた。この材料は環境応答性材料などに展開でき、次世代材料として材料革命を起こす可能性を秘めているとのことであった。初日の討論会終了後の恒例となった懇親会では、いつもながら会場からあふれるほどの参加者を得て、ポスター発表の際にはなかなかできないような意見交換もなされているようであった。

二日間を通じたポスター発表の内容は、従来と同様、迅速・簡便な熱分解GCを始めとしてNMRやIRなどの分光学的手法や、SECやSEMなど、すぐに使える実用的な手法から将来が楽しみなものまで、バラエティーに富んだものとなった。また、新しい手法としてMALDI-TOF/MSに関する発表が増えている傾向が見られた。このように手法はバラエティーに富んだものであるが、発表対象が高分子分析と言う共通性があるため討論も深く、密なものとなっているようである。2日目の最後には、これも恒例となった総合討論「高分子分析及びキャラクタリゼーションの諸問題」が、主に今回の発表内容を題材として繰り広げられた。

閉会に先立ち最後に、優秀発表賞の発表と記念品の授与がなされた。選考はポスター発表者全員と実行委員による投票結果をもとに行われた。受賞者は以下の11件である（発表番号順）：

1. 反応熱分解ガスクロマトグラフィーおよびマトリックス支援レーザー脱離イオン化質量分析法によるポリカーボネート中の分岐・架橋構造の解析（名大院工）大場恵史
2. 表面増強赤外分光法を利用したLC/IRの感度向上の検討（豊田中研）須藤栄一
3. クライオSEMによるエマルジョンの微細構造解析（コーセー）山下美香
4. マトリックス支援レーザー脱離イオン化—質量分析法（MALDI-MS）によるPEG系界面活性剤の生分解挙動の解析（名城大農学ハイテク）佐藤浩昭

5. 総合プロセス解析技術の開発?ウレタン系接着剤の硬化反応と動的物性解析? (大日本印刷) 坂田玲子
6. 化粧品中のヒドロキシエチルセルロースの分析 (ライオン) 埴原鉦行
7. 反応熱分解ガスクロマトグラフィーによる含臭素ポリカーボネートの構造キャラクタリゼーション (名大院工) 増田隆之
8. 酸化チタン/ポリジメチルシロキサンハイブリッド微粒子の合成とキャラクタリゼーション (コーセー) 中出正人
9. DOSYおよびSEC-NMRによるエチレンプロピレンジエン共重合体 (EPDM) のキャラクタリゼーション (阪大院基礎工) 尾崎智映
10. 均一オリゴマーを用いたMALDI-TOFMSによる分子量分析測定の定量性の評価 (物質研) 島田かより
11. UV硬化樹脂の分析法 (東レリサーチセ) 藤吉智子

以上11件中にはMALDI-TOF/MSに関するものが3件あり、この手法への関心の高さが伺える。本討論会は、名古屋市工業研究所を会場にお借りして、これまでの5回を全て行ってきたが、少なからぬ参加者・会員からの要望に応える形で、来年度は初めて東京地区で行うことを計画している。すでに2001年11月初旬に工学院大学新宿校舎を会場として開催すべく準備を進めている。次回も引き続き、ふるってご参加・ご発表頂くようお願い致します。また、今回の講演要旨集にまだ残部があり、ご希望の方には実費(3000円)でお分け致しますので、大谷幹事委員長までご一報を。

[(株) 豊田中央研究所 杉浦元保]

